

実施日	視察先	視察項目	備考
7月9日	青森県 八戸市	基地対策及び基地周辺整備 について	
7月10日	海上自衛隊 八戸航空基 地	基地の概要について	

視察先	項目	調査内容
八戸市	基地対策及び基地周辺整備	<p>八戸市は、青森県東南部に位置し、太平洋に面しており、人口約23万7000人、面積は305.4平方キロメートル、気候は、夏はやませの影響で冷涼、冬は東北地方に位置しながら積雪量は少ないのが特徴である。今年、市制85周年、東北新幹線八戸駅開業12周年を迎える。水産業では、イカの水揚げ高が日本一を誇り、毎月10日を「イカの日」、毎年8月10日を「八戸イカの日」に制定し、様々なイベントを行っている。スポーツでは、スケート・アイスホッケーが有名で、その他B1グランプリ発祥の地であり、また女子レスリングの伊調姉妹の出身地でもある。</p> <p>自衛隊の基地の位置関係については、航空自衛隊三沢基地までは約22キロ、陸上自衛隊青森駐屯地までは約72キロ、海上自衛隊大湊基地までは91キロとなっている。三沢飛行場は、航空自衛隊の基地であるとともに、民間の飛行場でもあり、さらにはアメリカ空軍も日米地位協定に基づき、利用している。</p> <p>基地対策に関わる組織体制については、</p>

		<p>八戸市では、青森県、周辺市町村、警察、消防、東北防衛局とともに、「八戸飛行場周辺航空事故連絡協議会」を結成しており、会合は年に1回開催され、八戸飛行場について様々協議を行っている。その他、八戸市では、三沢基地の事故連絡協議会や青森県の基地関係市町村連絡協議会のメンバーともなっており、この県の連絡協議会を通じて要望活動を行っている。このため、東北防衛局への直接の陳情は行っていない。</p> <p>苦情については、過去3年間の苦情はなく、特に、平成25年4月10日より同年11月11日まで、警戒待機一時移転のため航空自衛隊三沢基地所属のF-2戦闘機4機が配備されていたが、騒音等の苦情はなかった。</p> <p>直近の事故については、平成25年9月にはP-3Cの衝突防止灯カバーの落下、平成26年4月には同じくP-3Cの救難無線装置が脱落、平成26年7月には陸上自衛隊の戦闘ヘリのゴム部品が落下する事故が発生している。また、視察前日の平成26年7月8日には、陸自のヘリのゴム部品落下の事故が発生した。</p> <p>防衛補助事業については、「防衛施設周辺の生活環境の整備等に関する法律」第3条に基づく、補助金額について、平成23年度は小学校1校の設計に105万6000円、24年度は0円、25年度は小学校1校の工事及び中学校1校の設計に8,776万2,000円が補助されている。第9条に基づく調整交付金は、平成23年度は</p>
--	--	---

		<p>5, 602万5, 000円、24年度は5, 657万1, 000円、25年度は5, 788万5, 000円で主に道路工事等に使われている。</p> <p>課題について、1点目は、三沢飛行場が悪天候等で使用できない場合、八戸基地への緊急着陸が増えるのではないかと懸念があることである。すでに年4～5回米軍のF16が八戸基地に緊急着陸していること、また無人偵察機グローバルホークが本年6月から三沢基地に2機配備されており、さらにはF-35ステルス戦闘機が2017年度から三沢基地に順次配備され、将来的には20機配備される予定とのことであった。2点目は、三沢基地との距離が近いと、多くの米軍関係者が八戸市に買物や飲食で訪れるが、数年に1度、婦女暴行や交通事故が発生しており、治安等に課題があるとのことだった。</p>
八戸航空基地	基地の概要	<p>八戸航空基地は、八戸市役所から直線で約4キロと極めて近い距離に位置している。基地の沿革は、昭和16年陸軍飛行場として開港し、昭和20年米軍進駐、昭和31年に返還、昭和32年に海上自衛隊八戸隊が発足し、昭和60年にP-3Cが配備され、現在に至っている。滑走路は、長さ2,250メートル、幅45メートルで、下総基地と同じ規模である。主な任務は、第一に日本海北部・北海道周辺の警戒監視、第二に災害派遣、第三に民政協力と</p>

		<p>して昭和35年より海氷の観測を行い、気象庁にデータを提供している。第4に、海外派遣として、ソマリア沖アデン湾の海賊対処活動として、P-3Cを派遣している。</p> <p>東日本大震災時の基地の対応について、</p> <p>1点目は、航空機による人命救助活動。2点目は、基地への被災者の受け入れ。3点目は、航空機等による物資の輸送。4点目は、がれき撤去等の復興支援を行ったとのことだった。</p> <p>ソマリア沖アデン湾の海賊対処活動について、ソマリアはアフリカ大陸の東側に位置し、アデン湾は北のアラビア半島と南のソマリア半島に挟まれた東西に細長い湾である。活動の背景としては、1991年の内戦の勃発により無政府状態となり、アデン湾に海賊が頻発するようになり、2008年4月には、日本郵船のタンカーが被弾する事件も発生、2008年6月の国連安保理決議の採択を受け、日本でも2009年6月海賊対処法が成立している。被害は、2008年には111件発生し、42隻の船が乗っ取られ、815人が拘束、1件あたりの身代金支払い額は、270万ドル、現在の日本円に換算すると約2.7億にもものぼる。主な活動内容としては、海上自衛隊の航空部隊は、P-3Cを2機派遣し、4カ月交代で、アデン湾を広域飛行し、海賊船の警戒監視と発見した場合の情報提供を行っているとのことであった。</p> <p>基地の概要説明の後、基地内を見学し、</p>
--	--	---

		<p>対潜哨戒機 P-3C、航空機用の化学消防車、ドラッシュシュェルターという組み立て式のテント、運搬車、浄水器、管制塔内などを見学した。化学消防車は、別名オシュコシュ、全長約12メートル、幅3.1メートル、高さ3.8メートル、重量は約30トンで、天上の回転式放水塔（ルーフトレット）は、最大70メートルも放水できるとのことだった。ドラッシュシュェルターは、6人がかりで12分間で完成し、10名が宿泊できるとのことだった。</p>
--	--	---